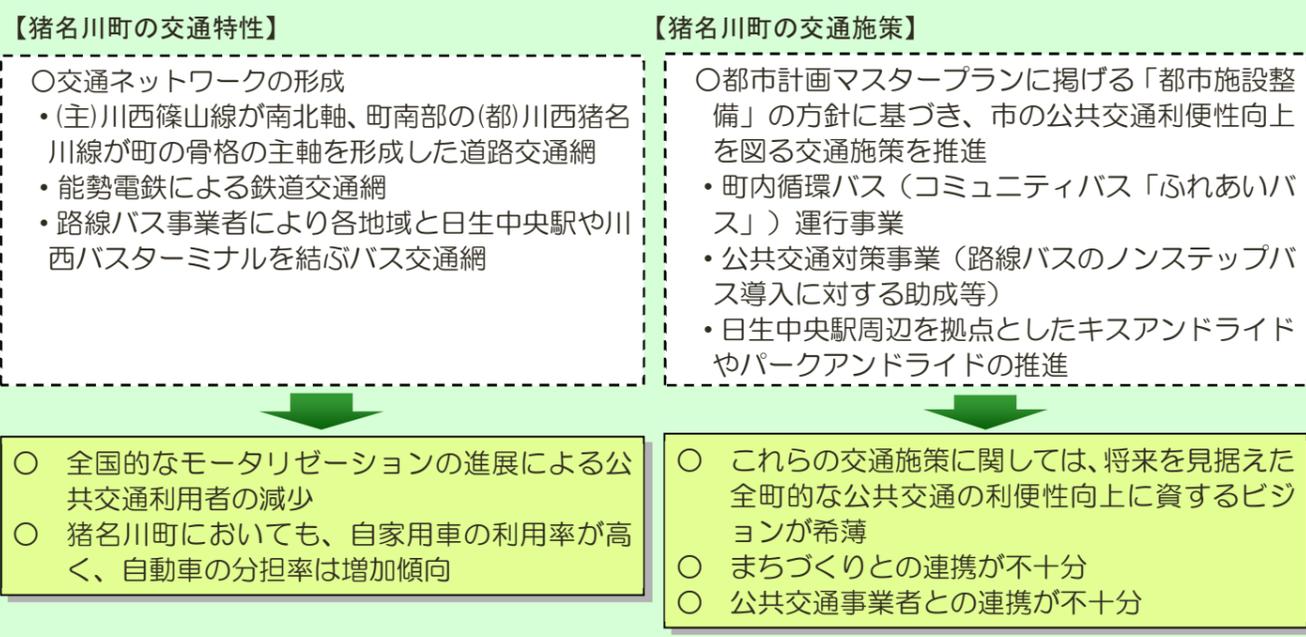


猪名川町地域公共交通ネットワーク見直し方針 概要版

猪名川町マスコットキャラクター
「いなぼう」



計画の目的と背景



上記を踏まえ、公共交通事業者やまちづくり等との連携をはじめ、人口減少、高齢化の進展を見据え、コミュニティバス「ふれあいバス」をはじめとする町内の公共交通ネットワークのあり方を定め、利用者のニーズに合った路線に見直すことで、利便性の向上、持続可能な地域交通ネットワークの形成を目指した「猪名川町地域公共交通ネットワーク見直し方針」を策定することにより、本町の実情や今後の社会状況に即した持続可能な公共交通の確保を図ります。

公共交通ネットワークの課題

コミュニティバス「ふれあいバス」等の公共交通ネットワークを取り巻く現状や上位・関連計画を踏まえた課題を以下に示します。

- 課題① 多様なニーズを把握したコミュニティバス「ふれあいバス」の見直し
- 課題② コミュニティバス「ふれあいバス」と路線バスの維持・活性化に向けた料金体系の見直し
- 課題③ 各交通モードの役割を明確化し、まちづくりと整合した公共交通ネットワークの再構築
- 課題④ 新しい拠点を交通結節点とした公共交通のあり方

見直しの方向性

猪名川町におけるコミュニティバス「ふれあいバス」をはじめとした公共交通の現状と課題や上位計画に示す将来の都市像等を踏まえた、地域公共交通ネットワークの見直しに係る方向性を以下に示します。

① 路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」等の役割を明確にし、利用しやすい料金体系による新たなバスネットワークの形成

猪名川町内の多くの地域において、路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」のルートが重複し、異なる料金体系で運行している状況を踏まえ、路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」の役割分担と連携による効果的で効率的なルートの見直しと、料金格差の緩和に向けた新たな料金体系の構築を図り、新たなバスネットワークの実現を目指します。

② まちづくりと連携した交通結節点の強化

猪名川町の交通・商業機能の拠点となる日生中央駅前、機能拡大による移転後の道の駅いなぼう及び町内の主要な拠点を『乗継拠点』と位置づけ、猪名川町内各地から交通結節点（乗継拠点）へのアクセス利便を向上し、鉄道・路線バス・コミュニティバス「ふれあいバス」等の乗り継ぎを改善することで、町内や町外への住民の公共交通による移動の利便性を確保します。

③ 地域特性や利用実態に応じた多様な交通システムによる持続可能な交通体系の構築

地域別の利用実態や、時間帯による利用実態を踏まえ、効率的な運行を図るために、既存の交通システムにとらわれず、経費の削減が見込まれる効率的な新たな交通システムへの転換も含めた見直しを行います。それにより、財政負担の軽減を図り、持続可能な交通体系の構築をめざします。

④ 住民・事業者・行政などの多様な関係者との連携

住民をはじめとする地域の関係者、事業者、行政などがそれぞれの立場で役割を認識し、協働により公共交通を支えることで、地域に適した持続可能な公共交通の実現をめざします。また、地域の公共交通を地域住民自身で守り育てる意識の醸成を図ります。

●日生中央駅（能勢電鉄）



●阪急バス



●コミュニティバス「ふれあいバス」

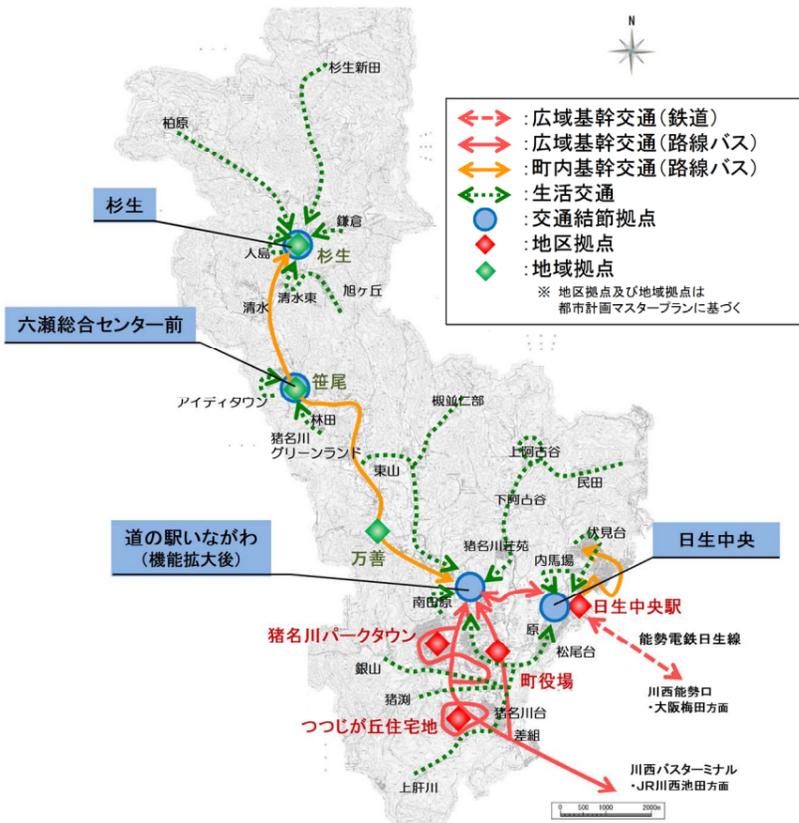


猪名川町における公共交通網の基本的な考え方

各交通モードの機能を最大限に発揮するためには、各交通モード単独による利便性や生産性の向上だけでなく、各交通モードで役割分担を行いながら、全体的に連携強化を図る必要があります。

猪名川町の公共交通は、現状の運行状況や役割を踏まえ、「広域幹線交通」、「町内基幹交通」、「生活交通」に機能分類し、階層的なネットワークを構築します。

また、「乗継拠点」を設けることで、広域幹線交通、町内基幹交通、生活交通の接続性を高め、効率的で効果的なネットワークの形成を目指します。



機能分類	役割	対象
広域基幹交通	○ 町内と周辺市町を結ぶ町の骨格を形成するために重要な機能を担い、広域的な公共交通の軸として、通勤・通学等町民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道（能勢電鉄：日生線） 路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）
町内基幹交通	○ 町内の地区拠点や地域拠点間を結ぶ町内の骨格を形成し、町内各地域と猪名川町中心部等とのアクセスに重要な役割を担い、町民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）
生活交通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 路線バスが乗り入れ困難な地域の生活圏内の移動を助け、猪名川町中心部及び基幹交通（広域基幹交通・町内基幹交通）へのアクセス手段としての機能を担い、町民生活を支える。 ○ コミュニティバス「ふれあいバス」では対応しきれない需要が分散・少ない地域を補完する新たな交通システムも『生活交通』として位置づけ、地域内と最寄りの乗継拠点間を結ぶものとする。 ○ タクシーは、他の公共交通機関が運行していない時間帯における地域住民の生活の移動や、観光旅客や来訪者の移動等に即時対応可能な移動手段として、猪名川町の公共交通機関と位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス「ふれあいバス」 新たな交通システム タクシー
乗継拠点	○ 広域基幹交通、町内基幹交通及び生活交通間の乗継拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報の提供等機能強化を図るべき拠点として位置づける。	<ul style="list-style-type: none"> 日生中央 道の駅いながわ（機能拡大後） 杉生 六瀬総合センター前

地域公共交通ネットワーク見直し（案）

路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」は、前述の「公共交通の役割分担と位置づけ」に基づいたバスネットワークを構築しています。

コミュニティバス「ふれあいバス」のみの運行エリアは、交通空白地の解消の観点から「生活交通」として、コミュニティバス「ふれあいバス」の運行あるいはコミュニティバス「ふれあいバス」等の利用者が少ない区間を対象に、『新たな交通システム』を導入するものとします。

新たな交通システムは、交通空白地を新たに発生させず、かつ運行の効率化を図るために、デマンド型乗合タクシーを想定します。また、これまでの路線バスやコミュニティバス「ふれあいバス」と比べて、輸送規模が小規模となるため、運行の効率化を図る観点から、地域内と最寄りの乗継拠点間を結ぶものとします。

バスネットワークの見直しにより、乗継拠点において、広域基幹交通、町内基幹交通及び生活交通との乗り継ぎが生じる利用が新たに発生します。

乗継利用時における料金負担の軽減を図るために、新たな料金体系の導入に向けた検討が必要であり、料金見直しに伴う値下げによる損失分は、町が負担することを想定し、交通事業者とともに検討を進めるものとします。



※町の考え方を示したものであり、交通事業者との協議・調整が必要である。